
空想と想像

真田火澄

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空想と想像

【Nコード】

N8725D

【作者名】

真田火澄

【あらすじ】

真っ白な紙に引かれた一本の黒い線。それを見る君の視線がとても綺麗でした。

純潔を、

この手で

汚すんだ

・空想と想像・

真っ白な紙に黒い線を引くのは気がひけると、君が言った。

だから僕はそんな事ないと言い、真っ白な紙に一本線を引いた。

一本、黒い線を真っすぐ。

一点の狂いもない、純粋な黒い一本線。

その線が、

それを見る君の眼が、

すごく綺麗だった。

君が欲しい

僕の視線は、自然と君の中へいく。

君の肌に触れる。

その可愛い唇に触れる。

君の純潔な心を、

君の純潔な軀を、

この僕が汚すんだ。

汚らわしい？

憎い？

醜い？

それとも

愛しい？

君を神に捧げよう。

僕と言う名の神に。

純潔を捨て、

僕にその軀を見せておくれ。

君は『少女』から『女』になった。

これも全部、僕のおかげ。

だから僕に感謝してよね。

僕は自分の書いた文を読み、ペンを置く。
部屋には誰もいない。
僕一人。

「そして、二人は幸せになりました」

僕はクスツと微笑んで、その紙を一気に破いて捨てた。

「きれー」

粉々になった紙は重力に従ってヒラヒラと舞い落ちた。

「さてと。次のお話は……何にしようかなあ」

新しい紙を用意して、
またペンを握った。

カリカリと文字を刻む音が響く。

僕の周りには細かく千切られた紙が積もり、
白い山ができていた。

「昔々、白い国に黒い王子様がいました」

また黒と白の話。

僕はニイと笑い、また紙を千切って自分の真上に投げた。

e
n
d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8725d/>

空想と想像

2010年10月24日04時07分発行